

高瀬神社 社報

# 越中一宮



## 第40号

平成 26 年 1 月 1 日

越中一宮高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影：南部スタジオ



明けましておめでとうございます。新しい年を迎え自然界のすべてのものが希望を持って幸せに生きる夢を抱ける新年であってほしいと思います。

正月は幾つになっても、何回迎えても、その年々に新しい変化や装いがある、それが様々な形になり思い出となって人生における励みや生きていくことの喜びになって行くと思います。

正月は本来目出度く明るいイメージですが、時には悲しみや暗い思いで迎えることもあります。そのような時は落ち込むよりも逆に生きる力の源になると思います。私は八十五回目の正月をむかえました。八十五回の新年の中には文字にも言葉にも表したくないような思い出がありました。

小学生の頃、家の手伝いのため正月は友達と遊ぶことが出来ませんでした。祖母や父に連れられて兼務している神社へ元始祭に出かけて神主としての見習いをさせられました。「こんな家にどうして生まれてしまったのだろう。」と思ったことが



年頭講話

「正月」

宮司 藤井秀弘

多々ありましたが、この見習い修行によって神明奉仕の心構えが芽生え、逆境に打ち勝つ根性が育ったのだと思うと、今となってはありがたいと思う毎日です。朝夕、御霊舎の前に座ってお参りする時、理由無く涙が流れて「ありがとうございます。」と頭をさげることが度々です。年末には除夜祭の祝詞を奏上しながら「今年も一年間無事に健康に過ごすごことが出来ました。ありがとうございました。」と心中にて大神様に御礼を申し上げるのです。そして新年最初の祭儀である歳旦祭にて祝詞を元気に奏上出来る喜びは無常の喜びであり、神主冥利に尽きるといえます。社家に生れ、六十の兼務社に奉仕できる喜びを感じる瞬間でもあるのです。八十五年の年月、大病することもなく、現在も兼務社の元始祭に始まり、祈年祭、春秋のお祭り、新嘗祭やその他のお祭りに走り廻ることが出来ることを嬉しく思っています。

「氏子の人に愛される神主になるためには、神様に愛される神主になる。」と父が教えてくれたことを一

日として忘れたことはありません。小さい時から祖父や父が私に教え、伝えてくれた当家の行事や精神を確実に息子や孫に伝承してゆく責任を感じています。昨年だったと思いますが、NHKの街頭インタビューで若者に、日本の国について質問した折、「こんな国を愛する心はありません。早く無くなる方がいいです。」と答えているのを聞いて、この若者たちは何を教育されてきたのだろうと驚かされました。戦後、我が国は伝統的精神を軽んじ、民主主義・個人主義を権利という言葉にして、これを振りかざし、自分たちの利益のみを守ろうとしてきました。昔、鎌倉時代に「泣く子と地頭にかてぬ」という言葉があったようですが、現代社会はよく似ているように思います。自分が今置かれている立場を不服に感じることは多々あることでしよう。これを乗り越えるためには先輩諸氏の経験や教訓などに素直に耳を傾け、時には反発しながら、もがきながら日々頑張ることによって、苦労が報われ感謝の心に変化してゆくのではないのでしょうか。

今年のお正月は、自分のことより他人のことを優先できる人、素直に感謝できる人、先人の意思を受け継ぎ伝えることができる人、郷里を愛し国を愛せる人など、かつての日本人誰しもが持ち合わせていた日本人らしさを多くの人が取り戻せるように、年頭にあたり大神様に祈念したいと思います。

平成二十六(甲午)年  
皇紀二六七四年

謹賀新年

宮司 藤井秀弘  
権宮司 藤井秀嗣  
禰宜 河合正登  
権禰宜 長谷川宏幸  
全 辻林秀嗣  
巫女 藤井友希  
全 今井映里奈  
全 今井茉莉奈  
事務員 中島璃子  
安藤棠里子  
嘱託 岩倉友子  
上口友子

## 祭 事 録

## 例 祭

九月十三日、例祭が斎行され、出雲大社千家尊祐宮司をはじめ氏子崇敬者約百名が、参列されました。

宮司祝詞奏上、浦安の舞奉奏の後、コーラスグループ・ソット・ヴォーチェの先導により、「高瀬神社奉賛歌」を奉唱しました。

続いて功霊殿例祭では、井波松風会・小橋外風氏が「城山」、斎藤彰岳氏が「英霊南より還る」の吟詠を奉納し、約八十名の遺族と御英霊に感謝の誠心を捧げました。



## 村まつり

十月六日、村まつりが行われ、氏子五十名が農繁期を終えた事を氏神様に奉告し、感謝を捧げました。

祭典に先立ち、子ども神輿が神子畑・勸学院・大宮司の氏子区域を巡行し、「わっしょい、わっしょい」と声を響かせ、神輿を曳きました。

直会では大正・昭和に撮影された地域の記録写真が紹介され、たほか、「熱おくり」太鼓の演奏も披露されました。



## 献茶式

十月二十七日、第四十回献茶式（主催・高瀬神社献茶奉賛会）が行われました。

祭典では宮司の祝詞奏上に続いて表千家流・城宝義光氏の手前で、御神前に濃茶・薄茶が供えられました。

当日は茶席が設けられ、茶道愛好家約二五〇名が晩秋の一品を楽しみました。

## 【薄茶席】

表千家流 橋爪孝仙社中

## 【煎茶席】

皇風煎茶礼式 橋爪孝雲社中



《平成二十六年》

## 祭 事 暦

|       |     |       |       |       |     |       |     |        |     |        |     |       |       |        |       |       |     |        |     |       |     |        |       |       |       |        |     |         |     |        |     |        |       |       |      |        |       |        |      |         |       |         |       |          |     |        |      |         |       |          |     |
|-------|-----|-------|-------|-------|-----|-------|-----|--------|-----|--------|-----|-------|-------|--------|-------|-------|-----|--------|-----|-------|-----|--------|-------|-------|-------|--------|-----|---------|-----|--------|-----|--------|-------|-------|------|--------|-------|--------|------|---------|-------|---------|-------|----------|-----|--------|------|---------|-------|----------|-----|
| 一月 一日 | 歳旦祭 | 一月 三日 | 昭和天皇祭 | 一月 七日 | 天分祭 | 二月 三日 | 紀元祭 | 二月 十一日 | 祈年祭 | 二月 十七日 | 鎮火祭 | 三月 八日 | 春季皇霊祭 | 三月 二十日 | 神武天皇祭 | 四月 十日 | 祈年祭 | 四月 十九日 | 風宮祭 | 五月 十日 | 夏越祭 | 五月 二十日 | 稲荷社例祭 | 六月 十日 | 人形感謝祭 | 七月 二十日 | 除夜祭 | 七月 二十七日 | 七夕祭 | 八月 十六日 | 中秋祭 | 九月 十三日 | 秋季皇霊祭 | 十月 五日 | 村まつり | 十月 十七日 | 神嘗奉祝祭 | 十一月 三日 | 明治節祭 | 十一月 十三日 | 神明宮例祭 | 十一月 十五日 | 七五三祝祭 | 十一月 二十三日 | 新嘗祭 | 十二月 三日 | 天長節祭 | 十二月 十三日 | 師走大被祭 | 十二月 三十一日 | 除夜祭 |
|-------|-----|-------|-------|-------|-----|-------|-----|--------|-----|--------|-----|-------|-------|--------|-------|-------|-----|--------|-----|-------|-----|--------|-------|-------|-------|--------|-----|---------|-----|--------|-----|--------|-------|-------|------|--------|-------|--------|------|---------|-------|---------|-------|----------|-----|--------|------|---------|-------|----------|-----|

◎毎月一日・十三日 月次祭  
◎毎月十三日 交通安全祈願祭



## 祭 事 録

## 新 嘗 祭

十一月二十三日、新嘗祭が斎行され、氏子崇敬者・農業関係者約五十名が、五穀豊穡に感謝しました。

## 献穀田

(南砺市野能原・築田敏裕氏)で収獲された玄米を井波地域中核農業士協議会・吉川順一会長、白米を築田敏



裕氏、柴田嘉久稲作部長が白酒をそれぞれ三方に載せて、献饌されました。

また、本年は上田憲仁さんと農業協同組合長に幣帛供進使としてご奉仕いただきました。

祭典終了後、長年農業発展の為に寄与された篤農家表彰と、献穀田奉耕者・篤志者への感謝状贈呈がありました。



献饌中の築田敏裕氏

## 【篤農家表彰】

小町 幸一 殿(南砺市高窪)  
開 正雄 殿(南砺市理休)

## 【感謝状授与・献穀田奉耕者】

築田 敏裕 殿(南砺市野能原)

## 【感謝状授与・

## 物品奉納及び奉仕活動】

長井 政雄 殿(南砺市高瀬)  
清雲 秀雄 殿(南砺市高瀬)  
大和彌壽夫 殿(南砺市高瀬)  
岩倉 勲 殿(南砺市高瀬)  
岩倉 壽一 殿(南砺市高瀬)  
立正校成会 砺波支部 殿  
明るい社会づくり 砺波圏民会議  
南砺支部 上野 恵子 殿

献穀田だより  
抜穂祭・初穂曳奉仕

九月二十一日、本年奉耕者・築田敏裕氏(南砺市野能原)の献穀田にて、井波地域中核農業士協議会(吉川順一会長)主催の抜穂祭が行われました。

宮司の祝詞奏上に続いて斎田が清められ、関係者約五十名が見守る中、五名の早乙女が黄金色に実った「コシヒカリ」を刈り取りました。

収獲された稲は十月十七日、伊勢の神宮で斎行された神嘗祭で「懸税(カケチカラ)」として奉献されました。



稲刈中の早乙女さん

## 早乙女奉仕者

樋爪 馨月さん(高校生)  
高熊 莉歩さん(中学生)  
朝倉 樹子さん(中学生)  
齋藤 里菜さん(中学生)  
砂田 滯さん(中学生)



南砺の豊かな大地に感謝

十月十五日の「初穂曳」に参加された築田さんご夫妻



## 剣道大会

十月六日、第五十一回奉納剣道大会が開催され、南砺・砺波・小矢部の小中高校生約二〇〇名が熱戦を繰り広げました。



大会は当初、敬老の日（九月十六日）に開催でしたが、台風の影響により、五十一年の歴史で初の延期となりました。当日は爽やかな秋晴れの下、日本剣道形の奉納に続いて、団体戦と個人戦で鍛錬の成果を競いました。

試合結果は次の通りです。

### 《団体の部》—敬称略—

#### ▽小学生男・女

- ① 庄川剣道スポーツ少年団
- ② 井波剣道スポーツ少年団

#### ▽中学生男子

- ① 庄川中学校
- ② 井波中学校
- ③ 出町中学校

#### ▽中学生女子

- ① 庄川中学校
- ② 出町中学校



### 《個人の部》

#### ▽小学生男子

- ① 永田 晃久（砺波）
- ② 石川凌太郎（井波）
- ③ 神田 涼汰（井波）
- 野村 駿太（庄川）

#### ▽小学生女子

- ① 松川 瑞穂（井波）
- ② 齊藤 未来（砺波）
- ③ 五十嵐理歩（砺波）
- 瀧口 美和（晴武館）

#### ▽中学生男子

- ① 中山 智祐（井波）
- ② 山本 泰斗（庄川）
- ③ 武田 将征（井波）
- 嶋 拓人（井波）

#### ▽中学生女子

- ① 扇割 加奈（庄川）
- ② 神田万里奈（井波）
- ③ 野村 雪乃（福野）
- 石崎 日和（出町）

#### ▽高校生男子

- ① 吉田晋太郎（南砺福野）
- ② 島田 裕成（砺波）
- ③ 林 謙伍（砺波工業）
- 扇割 達也（南砺福野）

#### ▽高校生女子

- ① 野原 果鈴（南砺福野）
- ② 野村明日香（砺波）
- ③ 沖田 美咲（南砺福野）
- 中島 実希（南砺福野）

## 新参集殿・竣工清祓式

九月二十日、今春より工事を進めておりました「新参集殿」の竣工清祓式が行われました。



祭典に続き、完成祝賀式が行われ、来賓の田中幹夫南砺市長をはじめ関係者約四十名と完成を喜びました。  
十月一日にオープンし、五日には第一号となる結婚式・披露宴が行われました。

## 里芋おはぎ茶会

十二月一日、井波茶道同好会主催「里芋おはぎ茶会」が行われ、約二百五十名が粘り気のある里芋の風味を堪能し、心尽くしの一服を味わいました。

本席は三宅宗静さん、副席は箭原静潤さんが務め、高瀬遺跡保存協会（竹村武夫会長）が協力されました。

本席では、五月十日六十年に一度の本殿遷座祭が行われた出雲大社の古材で作られた茶杓が用いられました。







野見宿禰



野見宿禰



野見宿禰



荒 神

**観月祭**  
 ～大土地神楽奉納～  
 九月二十二日、島根県出雲地方に伝わる国重要無形文化財「大土地神楽奉納」が行われ、約二百名が神話を元にした迫力の神楽を楽しみました。  
 本年の観月祭は、出雲大社で六十年ぶりに行われた「平成の大遷宮」を奉祝し、大土地神楽保存会の神楽方を招き、行いました。



野見宿禰



野見宿禰



荒 神

## 戌の日 (安産祈願)

1月3・15・27日 7月 2・14・26日  
 2月8・20日 8月 7・19・31日  
 3月4・16・28日 9月12・24日  
 4月9・21日 10月 6・18・30日  
 5月3・15・27日 11月11・23日  
 6月8・20日 12月 5・17・29日

腹帯のお祓いも行いますのでご持参下さい。



ご家族お揃いでご参列下さい。

午後三時斎行

二月三日

節分祭 (豆まき)

ご案内

## 平成26年 厄年・身祝一覽

〔厄年〕 数え年

|   | 前 厄 |          | 本 厄 |          | 後 厄 |                     |
|---|-----|----------|-----|----------|-----|---------------------|
| 男 | 24歳 | 平成3年(未)  | 25歳 | 平成2年(午)  | 26歳 | 昭和64年(巳)<br>平成元年(巳) |
|   | 41歳 | 昭和49年(寅) | 42歳 | 昭和48年(丑) | 43歳 | 昭和47年(子)            |
|   |     |          | 61歳 | 昭和29年(午) |     |                     |
| 女 | 18歳 | 平成9年(丑)  | 19歳 | 平成8年(子)  | 20歳 | 平成7年(亥)             |
|   | 32歳 | 昭和58年(亥) | 33歳 | 昭和57年(戌) | 34歳 | 昭和56年(酉)            |
|   |     |          | 37歳 | 昭和53年(午) |     |                     |

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。

〔身祝〕 数え年

|    | 年齢  | 生まれ年     |
|----|-----|----------|
| 還暦 | 61歳 | 昭和29年(午) |
| 古希 | 70歳 | 昭和20年(酉) |
| 喜寿 | 77歳 | 昭和13年(寅) |
| 傘寿 | 80歳 | 昭和10年(亥) |
| 米寿 | 88歳 | 昭和2年(卯)  |
| 卒寿 | 90歳 | 大正14年(丑) |
| 白寿 | 99歳 | 大正5年(辰)  |

※男女ともに祝います。

奉納

○「初穂米」

氏子

岩倉 勲殿

十月一日

○「金一封」

氏子

岩倉久範殿

十月十二日

○「神饌米」

南砺市

井波地域中核農業士協議会 殿

南砺市野能原

築田敏裕殿

氏子

岩倉和弘殿

十一月二十三日

○「社務所玄関幕」

南砺市高瀬

長井政雄殿

清雲秀雄殿

大和彌壽夫殿

岩倉 勲殿

岩倉 壽一殿

十一月二十三日

○「大注連縄」五張

高瀬神社注連縄奉納講

講元 渡辺信作殿

十二月二十日

○「国旗」一流

南砺市高瀬

大和彌壽夫殿

十二月二十日

○「提灯」二灯

南砺市本町

大野洋傘ちようちん店

大野勇吉殿

十二月二十一日

○「金一封」

氏子

森田松夫殿

十二月二十一日

○「干支(午) 大絵馬」

南砺市山下

南部 栄殿

富山市古鍛冶町

大谷美術学園

園長 大谷弓子殿

十二月二十三日

## 編集後記

○新年明けましておめでとうございます。

昨年、伊勢の神宮では二十一年一度の「第六十二回神宮式年遷宮」出雲大社では六十年一度の「平成の大遷宮」が行われました。

甲午の年が御神威の発揚とともに、日本全体が明るく輝かしい一年となりますよう、心より祈念申し上げます。

【表紙写真】

干支(午) 大絵馬と

大谷美術学園の皆さん



# 新バンケットホール OPEN!!



この地で二千年の歴史をもつ越中一宮 高瀬神社は、縁結びの神様をまつる神社として多くの神前挙式を執り行い、お二人の幸福を願ってきました。

この伝統ある神聖な儀式は大切に守りつつ、新たな家族との絆を深める日として、披露宴とウェディングのあるべき姿を見直しました。

明るい光に満ちあふれた新バンケットホールが、その晴れの日のステージ。

お二人のさらなる幸福を願う高瀬神社のウェディング。

縁結びの神様に誓う伝統の結婚式を挙げていただく、一生に一度の日だからこそ、一日一組のカップルの為だけに、このバンケットは生まれました。



只今  
御予約  
受付中

新バンケットホールでの結婚披露宴のご予約を承っています。  
お気軽にお問い合わせ、ご相談いただけますよう、お待ちしております。

あなたの人生に、神社がある。越中一宮 高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291  
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社

検索